

# 2016年熊本地震で何が起きたか

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会＋地盤基礎系振動小委員会

＜後援(予定)＞ 日本建築構造技術者協会、日本地震工学会、日本免震構造協会

2016年4月14日から数日間にわたって最大規模M7.3とする熊本地震が発生した。震度7を観測した益城町宮園では、構造物に被害を及ぼす1秒前後のパルス波が観測され、その周辺では木造家屋を中心に、神戸の震災の帯を彷彿させるほどの甚大な被害が発生した。地震規模、地震動、被害の大きさなど、1995年兵庫県南部地震といくつかの類似点があげられる。また、熊本地震の一つの特徴として、2回にわたって震度7の大振幅の地震動が観測されたこともあげられ、複数回の強震動による被害の拡大も注目されている。過去の被害地震と照らし合わせながら、熊本地震で何が起きたのか、また何が予測できたのかをテーマに、地震動評価を中心に活動している地盤震動小委員会と、相互作用を考慮した建物応答評価を中心に活動している地盤基礎系振動小委員会が合同で、この問題の現状と課題を議論する。

日 時：2016年12月2日(金) 10:00～17:20

会 場：建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)

内 容(各講演の題目等は変更されることがあります)

- 
- 司会：松島信一(京都大学)・関口春子(京都大学)  
：永野正行(地盤震動小委員会主査/東京理科大学)
1. 主旨説明 10:00～10:10
  2. 熊本地震の概要 10:10～10:30
    - 2-1 熊本地震の概要 : 神野達夫(九州大学)
  3. 熊本地震の震源像 10:30～11:30
    - 3-1 地表地震断層と活断層の長期評価の比較 : 吉見雅行(産業技術総合研究所)
    - 3-2 長期評価に基づく震源断層モデルと強震動予測結果 : 森川信之(防災科学技術研究所)
    - 3-3 観測記録により推定された震源断層モデルに見られる特徴 : 引間和人(東京電力)

司会：大堀道広(福井大学)・高橋広人(名城大学)
  4. 熊本地震の地震動と被害 12:30～14:10
    - 4-1 益城町と周辺における本震地震動と地盤増幅率 : 秦 吉弥(大阪大学)
    - 4-2 建物被害の観点から見た地震動の性質 : 境 有紀(筑波大学)
    - 4-3 益城町宮園周辺と断層極近傍における被害と地盤震動 : 元木健太郎(小堀鐸二研究所)
    - 4-4 益城町における地盤と基礎の被害 : 柏 尚稔(国土技術政策総合研究所)
    - 4-5 過去の被害地震と熊本地震の共通点・相違点 : 永野正行(前掲)
  5. 特別講演 14:10～15:10
    - 5-1 地盤中の波動伝播および建物と地盤の動的相互作用 —サブストラクチャー法に基づく解析 : 中井正一(千葉大学)
  6. 建物・地盤の相互作用 15:30～16:10
    - 6-1 被害事例と振動実験における地盤変状と建物被害の関係 : 田村修次(東京工業大学)
    - 6-2 地震記録に基づく益城町役場の地盤-建物応答 : 護 雅史(地盤基礎系振動小委員会主査/名古屋大学)

司会：護 雅史(前掲)・元木健太郎(前掲)
  7. 総合討論 16:10～17:10
  8. まとめ 17:10～17:20 : 佐藤智美(清水建設)
- 

記録：引田智樹(鹿島建設)

定 員：180名(当日会場先着順)

参加費：日本建築学会会員5,000円、後援団体会員6,000円、会員外8,000円、学生3,000円 \*資料代3,000円含む

問合せ：事務局事業グループ 伏見 Tel. 03-3456-2057

※別途有料にて、リアルタイム動画配信を実施します。視聴希望の方は下記URLからお申し込みください。  
なお、動画配信をお申し込みの方は、会場への参加・入室はできませんのでご注意ください。

▶ <http://www.aij.or.jp/index/?se=sho&hid=1615>